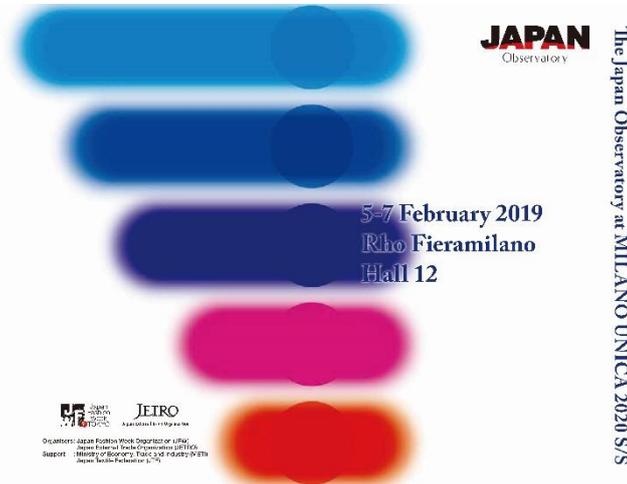


The Japan Observatory at Milano Unica 2020SS



日本のものづくり分野においては常に日本人の精神性を礎に「伝統・文化・技術」が共存しています。そして、日本のテキスタイルには、技術と革新に裏付けされる繊細な織りと編み、バリエーション豊かな後加工、原料を探求することで生まれる進化した素材表現等、世界中のクリエイターが惚れ込む唯一無二の素材が存在します。

The Japan Observatory at Milano Unica 2020SS は、厳選された日本企業 31 社・グループが出展する商談ブースと共に、出展企業の素材から構成したトレンド&インデックスをプレゼンする Japan PR ブースで構成され、日本が誇るイノベーション素材や匠の技を駆使した日本のプレミアムクオリティな素材を披露いたします。The Japan Observatory では、JAPAN TREND & INDEX ブースにて展示する素材に“ECO”マークを添付し、来場バイヤーへの PR をしてまいります。前回スタートし好評だった“スプマンテバー”を今回も設置し、来場されるプレス及びバイヤーに向けてドリンクサービスを行います。（*15:00～）今回 JOB は出展 10 回目を迎え、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

- 開催場所： Rho Fieramilano (Hall.12)
- 出展概要： 企業ブース+ JAPAN PR (TREND&INDEX) ブース
- 出展者数： 31 社・団体 （総展開面積 436 ㎡）
- 主催： 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 / 独立行政法人日本貿易振興機構
- 後援： 経済産業省 / 日本繊維産業連盟
- URL: <http://www.japancreation.com/japanpavilion/milanounica/2020ss/index.html>

< 新規出展者 インタビュー紹介 (50 音順) >

- **山陽染工株式会社** ～世界に負けない抜染技術を～
山陽染工は直接の海外取引を行っていませんでしたが、JETRO の「欧米向けテキスタイル輸出商談会」に参加してきました。商談会で出会ったバイヤーが MU にも来場されることもあります。日本での一度の提案ではなく、ニーズを把握して、よりバイヤーの要望に近い生地を紹介することで、提案の精度を高めます。今回はデニムの提案としてインディゴの抜染技術を紹介。「世界的に負けない抜染技術という自負がある」。カラーデニム系も強みです。「新規開拓で販路を広げたい」と期待しています。

- **篠原テキスタイル株式会社** ～テンセルデニムを出品～

篠原テキスタイルも JETRO の「欧米向けテキスタイル輸出商談会」に参加し、欧米バイヤーの同社のデニムについての意見を参考にしています。「当社はデニム分野の中でもきれいな目系。欧州市場に向けており、MU で評価してもらおう」と話していました。

今回はドビーで柄出したデニムや細番手で合織を入れた高密度のものを提案。また、「欧州はサステナビリティの潮流があり、テンセルデニムをエコ素材として打ち出す」予定です。エコ関係ではオーガニックコットン使いのデニムもあります。

- **株式会社タケヤリ - 丸進工業株式会社** ～JETRO 商談会の経験生かして～

タケヤリは新事業開発の部署が MU に出展します。「委託生産だけでなく、こちらから発信する素材提案」を行います。同社の強みはシャトル織機による高密度織物といった生産背景。「帆布の 1～3 号まで作れる設備があり、厚手分野での優位性がある。パンツやコート、ジャケットなど紳士向けを中心に展開。緯糸に麻を使ったものは婦人服にも好評」と言います。

海外販売はこれから本格化。とはいえ、JETRO の「欧米向けテキスタイル輸出展示商談会」に 6 回参加しました。「欧米バイヤーから中肉高密度のピックアップがあった。回を重ねることでどんな生地にも反応がいいのか、わかってきた」と、MU に挑戦します。今回も中肉高密度織物に洗い加工で風合いを出したり、表情感のあるもの、後加工のバリエーションを紹介します。「サステナビリティはトレンドのキーワード。原着のオーガニックコットンを扱ったことがある。緯糸にリサイクルコットンを使うことも可能。何らかの形でサステナブル生地も出品したい」と語っていました。

- **株式会社東紀繊維** ～PV とは異なる生地を提案～

MU 初出展とはいえ、PV には 12 年以上出展している東紀繊維。「イタリアではエージェントと個別企業を訪問しているが、回りきれない。MU に出ることにより多くのバイヤーとの接点を持ちたい」と、出展しました。ローゲージのビンテージ風のメンズが得意で、「吊り編み」も特徴です。

今回は「PV で出品しているものとは異なる生地」を意識しました。スポーツテイストを出すための合織混や、太番～細番までのインディゴ染めも準備しています。サステナブル生地は、「もともとオーガニックコットンやリサイクルコットンを使用しており、とくに打ち出しはしない」と、自然体で臨みます。

- **日本綿布株式会社** ～エコ関連デニムなどを～

日本綿布は PV に出展してきましたが、MU は初出展となります。今回は 80 点を紹介する予定です。

代表的なものは得意とするセルビッチデニム。また、ジャカード柄のデニムも提案します。エコ関連でも天然（植物）染めで、オーガニックコットンを使用したデニムのほか、デニムの残反や古着をリサイクルして糸に戻した再生糸を緯糸に使用したデニムなども出品します。

- **Blue LOOM** ～産地間企業コラボ打ち出す～

播州産地の播、尾州産地の御幸毛織、遠州産地の成和第一産業と児島産地企業による日本の織物産地プロジェクト「Blue LOOM」が MU に初出展します。日本の伝統技術を継承し、日本で培った感性からなるテキスタイルを世界に発信するのが狙いで、今回は「Mr.33」（ミスターセルビッチ）をブランドコンセプトに、シャトル織機にこだわった「和セルビッチ」として提案します。

インディゴ染めたウール 100% のツイード、フランネル、ギャバ。インディゴ染め糸によるコーデロイ、経・緯糸にインディゴ染めの綿糸を配したシャツ地など 46 品番を出品する予定です。11 月の PTJ にも出展しましたが、反響は大きく、セレクトショップなどが興味を持たれました。すでにホームページも立ち上げ、英文でも紹介。欧州バイヤーがどのような反応を示

すのか、楽しみです。

- **有限会社森川レース** ～世界に1台の機械で～

森川レースは12月に大阪で開かれたJETROの「欧米向けテキスタイル輸出商談会」に初めて参加しました。バイヤー6社がすべてに6～8点をピックアップされました。「欧米に直接輸出した経験はないが、23点しか出品しなかっただけに大きな自信になった」とし、今回のMUには色数を増やし、ぎりぎりまで新素材を開発して出展します。

同社の強みは世界に1台しかない日本マイヤーのラッセルレース機。30年以上前に18ゲージのバックジャカード付きの特注で導入。「量産のラッセルレースに比べ、風合いがソフト。この機械でないと出せない味」が好評のようです。MUではビンテージレースの「アンダンテ」シリーズなどを出品します。サステナビリティ関連では「リサイクルナイロンやオーガニックコットンでの開発」も進めています。

- **株式会社ヤギ** ～エコ商材を訴求～

ヤギはPVに出展していますが、今回、MUに初出展し、展示商品をそのままPVでも披露します。

欧州のサステナビリティを意識して、エコ関連商材を打ち出します。オーガニックコットンやリサイクルコットンを使用したカットソーや布帛を出品。布帛では強撚や細番手など糸での加工により、「きれいで、薄い」素材や、合繊混素材を展開する予定です。

- **渡縫織物株式会社** ～新たな販路開拓につながれば～

渡縫織物はこれまで海外の直接取引はあまり経験がなく、生地はコンバーターや問屋経由で輸出していました。今回、MUに初出展することで、「新たな販路開拓につながれば」と期待しています。

同社はシルク絡みが多く、婦人服向けが中心です。そのため、生地のバラエティーは豊富で、とくに春夏物の高級素材を得意としています。欧州のサステナビリティの潮流については、「今回はとくに意識せずに出品。どのようなものがサステナブルな生地に当たるのか、参加することで逆に勉強する機会にもしたい」と取り組んでいます。

<The Japan Observatory JAPAN TREND& INDEX コーナー 施工イメージ>



The JOBの顔ともいえるTREND & INDEXコーナー。今回の施工は“近未来”がキーワード。くり抜かれ連続するボックスが現在から未来へと繋がり光と共に明るい未来を予感させる。連続するボックスを俯瞰で見ると一枚のビジュアルが浮き出てくるだまし絵の中で素材が浮遊し、見るものの好奇心をくすぐる。明るく楽しい未来が連続しますようにと願いを込め、新たな創造性を表現します。

<JAPAN Fabric 展示点数>

MUトレンドテーマ	展示点数	The JOBトレンドテーマ	展示点数
2080 COUS COUS Rap	87	未来旅 = 時間飛行	86
2070 Funky TABBOULEH	15	おもちゃ箱×玉手箱	84
2050 BON BON JAZZ	62	じゅもん÷安堵感	86
Sustainable Fabrics	MU サステイナブル展示点数	新定義 + 方程式	93
	後日決定	INDEX	93

<10th Edition>

The Japan Observatory は今回で出展 10 回目の節目のシーズンになります。JFW Textile 事業事務局では、以下の 2 つのイベント開催いたします。

(連続出展者へ表彰式)

- ◆日時：2019 年 2 月 5 日 (火) 16:30～ (予定)
- ◆場所：The Japan Observatory エリア内
- ◆対象出展者 (50 音順)：宇仁繊維株式会社 / スタイルム株式会社 / 東レ株式会社 / 古橋織布有限会社
八木通商株式会社

(MU とのコラボパーティ)

- ◆日時：2019 年 2 月 5 日 (火) 19:00～ (予定)
- ◆場所：Service Center / Entrance South Gate
- ◆概要：MU 主催のパーティの冒頭にて、The Japan Observatory 10 回記念で、和太鼓の演奏、過去 9 回を振り返るスライドショー、鏡開き等を行い、和テイストのフィンガーフードと日本酒をお楽しみいただきます。

< 継続出展者 インタビュー紹介 (50 音順) >

●宇仁繊維株式会社 ～メゾンを狙う～

「あつという間の 10 回だった」という宇仁繊維。同社は国内だけでなく、世界の主要な生地展示会にほとんど出展しています。ミラノ・ウニカ (MU) もその一つという位置づけで、「成果はあった」と評価しています。商談もそうですが、「世界のレベルを知る上で、出展することでわかることがある」からです。

同社の宇仁龍一社長は「世界に売らずしてどうするか」とはっばをかけています。人口減少など国内市場は縮小傾向にありますが、同社の売上高は 20 年伸び続けています、これを支えているのも輸出が伸びているからでしょう。「MU では今後メゾン向けの取引を広げたい」と語っています。品質と高級感、ポリエステルや綿でも機能性は日本が優れていると話していました。

●スタイルム株式会社 ～有益な場として～

スタイルムは 10 回出展の成果について「満足している。とくにイタリアの既存顧客との距離感を縮める有益な場と認識している。また、イタリア以外の英国や米国からも顧客の来場が増えている」と評価しています。来場者についても、「イタリアの高級生地を見に来られるため、質 (レベル) の高い顧客が多く見受けられる」としています。

今回は綿エコ素材（サステナビリティ（持続可能性））、ラグジュアリースポーツニット素材、透け感素材、光沢素材などを出展する。「今後も出展を続け、M Uを通じてイタリア、その他の国の新規開拓を進めていく」

●東レ株式会社 ～ウルトラスエード出品～

東レは 10 回の出展について「イタリアのメゾンブランドを中心に総じて継続的に成果を上げている」としています。プルミエール・ヴィジョン（P V）にも出展していますが、「秋冬向けの P V が 9 月に対し、M U は 7 月と提案のタイミングが適している。また、M U の方がイタリア顧客、メンズ顧客の来場が多い」と評価しています。

今回の出展では従来の部分植物由来ポリエステルに加え、部分植物由来ポリウレタンを適用し、バイオ比率を約 30%まで向上させた厚手スエードタイプの「ウルトラスエード B X」、リサイクルポリエステルを使用した銀面調タイプの「ウルトラスエード n u R X S N F 3」（19 秋冬の P V でアワード受賞）を披露します。

●古橋織布有限会社 ～継続出展で注目を～

「10 回出展による成果はある」と古橋織布。「一つ一つの金額は大きくないが、継続出展することで注目された」と話しています。同社の特徴はシャトル織機による小ロット生産。高密度で、見た目に独特のシワ感があり、生産に時間を要します。このため、「きれい目な合織を好むハイエンドブランドの対象にはならないが、小ロットだから出る味を好まれる若手デザイナーやアパレルからは引き合いがある。イタリアよりもスペインや英国が多い」

今回は春夏なので綿のシャツ地を提案する予定。シャツ地としてはやや高めの価格になりますが、商談を期待しています。P V に比べて M U は出展ブースが 9 平方メートルからあり、「出展しやすい」ことも魅力です。

●八木通商株式会社 ～エコ関連素材も提案～

「M U に 10 回出展。ここにきて実績が出ている」と八木通商。イタリアを中心に取引先が増えています。顧客はイタリア各地に点在していますので、展示会で提案するのは効率的です。とはいえ、会期中の 3 日間には多くの来場者が集中するため、テーブルに座ってじっくり話すことは難しい。このため、「展示会後に顧客を訪ねてフォローアップすることで成果に結びつけている」と話しておられました。

今回は合織系の機能素材を訴求。「ファッションアパレルからも機能素材を求められる」ためです。また、「欧州はサステナビリティを重視しており、エコ関係の素材も出品。さらに同社が強みとするデニム関係の素材提案も強化しています。